

「WFPチャリティー エッセイコンテスト 2026」作品募集中

テーマ「今日の食事が当たり前でなくなったら」でエッセイを書き応募すると、途上国の2人の子どもに学校給食を届けることができます。
応募締め切りは9月30日(水)です。ご応募をお待ちしています！



©ふなっしー



© JAWFP



撮影 篠山紀信



©NobukoBaba



WFP エッセイコンテスト

検索

〈特別審査員〉

- ・ふなっしーさん
- ・広瀬アリスさん（女優/国連WFP協会アンバサダー）
- ・竹下景子さん（俳優/国連WFP協会アンバサダー）
- ・マリウス葉さん

〈審査委員長〉

堀潤さん（ジャーナリスト/元NHKアナウンサー）

未来へ想いをつなぐ 遺贈寄付セミナー

9月25日(金)、東京・横浜エリアにて遺贈寄付セミナーを開催します。
講師は、遺贈寄付の分野で長年の経験と実績をお持ちの齋藤弘道先生です。
終活や遺贈について学び、人生最後の贈り物について考えてみませんか。

詳細
お申込は
こちら



前回(2026年4月)開催の様子

「WFPウォーク・ザ・ワールド 2026 横浜・大阪・名古屋」開催終了

5月に横浜と大阪で、6月に名古屋でチャリティーウォークイベントを開催しました。
計7,674名のご参加により、約900万円の寄付が集まりました。
これにより、約30万人の途上国の子どもたちに学校給食を届けることができます。
ご参加いただきありがとうございました。



© JAWFP

レッドカップキャンペーン



国連WFPが学校給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、毎日のお買物で学校給食支援ができる国連WFP協会のレッドカップキャンペーン。
新たに2社が参加しました。売り上げの一部は学校給食支援に寄付されます。

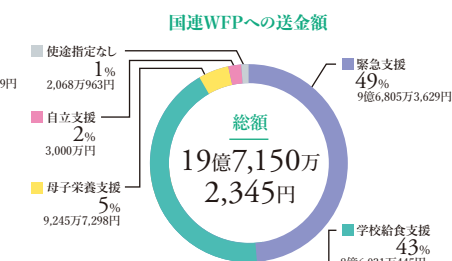
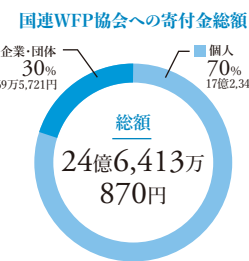
<https://www.jawfp.org/redcup/>



2025年度 寄付金報告

詳しくは
国連WFP協会
年次報告書2025
をご覧ください。

2025年度(1月～12月)、
国連WFP協会に寄せられた
企業・団体、個人の皆さまからの
ご寄付は約24.6億円になりました。
皆さまのあたたかい
ご支援に心より御礼
申し上げます。



※国連WFP協会は国連WFP本部との取り決めにより、寄付のうちの80%は国連WFP本部へ送金しており、残り20%(上限)は国連WFP協会の日本国内での活動および運営管理費などに活用しています。

世界食糧計画(WFP)日本事務所
認定NPO法人国連WFP協会

<https://ja.wfp.org/>

ご寄付はこちら



ご意見・お問い合わせ

0120-496-819

受付時間 9:00～18:00
(通話料無料・年始を除く年中無休)

<https://jawfp.my.site.com/workplace/s/Contact>

お問い合わせ
フォーム



飢餓から救う。
未来を救う。

SAVING LIVES CHANGING LIVES

国連の食料支援機関

国連WFP
ニュース

Aug. 2026 Vol.79

© WFP/Maxime Le Lijour

WFPが開催する母親向けの栄養指導に
一緒にやってきた子どもたち(パレスチナ・ガザ地区)

あなたの支援が形になるとき

～ パレスチナ・アフガニスタン・ミャンマーからの報告 ～

あなたの支援が形になるとき

国連WFP協会は2025年、大地震に襲われたミャンマーとアフガニスタン、紛争下にあるパレスチナ(ガザ地区)への緊急支援募金を実施しました。皆さまからは多大なるご支援をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。現地では今なお厳しい状況が続いていますが、その中でも、人びとは支援に後押しされて少しずつ、前を向いて歩き始めています。

パレスチナ(ガザ地区)

パン工場が再開

パレスチナ(ガザ地区)では紛争開始以降、WFPが26のパン工場に小麦粉や燃料を供給し、多くの市民の命を支えてきました。

パレスチナの人びとにとってパンは水の次に大切な暮らしに欠かせない食べ物です。

2025年、国境検問所の封鎖によってこれらすべてのパン工場が閉鎖に追い込まれましたが、停戦後、営業を再開しました。



エワイダさんは、空爆を受けた後のパン工場の様子を見せてくれた

「2025年7月、空爆で私の店は瓦礫と化しました」と、WFPの支援を受けるパン工場のオーナー、タリク・エワイダさんは話します。前のオーナーだった父親は、空爆の被害を確認に行き命を落としました。

その様な中でもエワイダさんは、かるうじて動く機械を何とか稼働させ、人びとに温かいパンを届けようと奮闘しています。

「店を継いだ私たちは、昼夜を問わずがれきを撤去し、やっとのことで営業を再開しました」—— タリク・エワイダさん

WFPはパン工場に小麦粉と燃料を供給し、ガザのパン需要の約3分の1を賄っています。ガザの人びとにとってパンはお腹を満たす大事な食料であると同時に、ほんの少しずつ日常生活が戻り始めたことの象徴でもあるのです。



仮住まいのテントの外で食事をしているマリウムちゃん(3歳)

子どもたちが安心して食べ、成長できる毎日を目指して支援を続けています



アフガニスタン

日本人職員の岡本史子さんより



動画を見る



パソコンから ▶ <https://youtu.be/vI2pq76nf3U>

「現地の人びとは、想像もつかないような苦労を重ね、次々ともたらされる試練に耐えてきました。それでも、WFPの支援によって人びとは少しずつ前に進もうとしています。皆さまの絶え間ないご支援で活動を続けられることに、改めて感謝いたします」

岡本史子さん



ミャンマー

自立を諦めない



「人生は順風満帆な日ばかりではありません。諦めずに戦い続ければ必ず、自分の足で立てようになると信じています」

「人生まだ終わっていないと実感できました」

ミント・ミントさん

2025年3月の大地震で、甚大な被害を受けたミャンマー。お菓子を売る屋台を営み、2人の息子を育ててきたミント・ミントさんは、地震によってお菓子の材料や運営に必要な費用など、多くのものを失いました。しかしWFPの支援でまもなく営業を再開することができました。



WFPの支援によって、困難に見舞われた多くの人が絶望や失意から抜け出し、再び自らの暮らしを築く力を取り戻しています。皆さまからのご寄付が活動を支えていることに、改めて感謝申し上げます。

